

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

1. 研究課題

交流と相克のユーラシア東方史

Interaction and Conflict in the Eastern Eurasian History

2. 研究代表者氏名

古松 崇志

FURUMATSU, Takashi

3. 研究期間

2023年4月-2026年3月(2年目)

4. 研究目的

ユーラシア東方は、草原・砂漠から成る乾燥地帯の中央ユーラシア東部と世界屈指の農耕地帯である中国本土とにまたがる地域である。そこは、古くから北の遊牧・狩猟民と南の農耕民という異なる生態環境に根ざした生業を持つ人びとが接触・交流する場であった。北方の遊牧・狩猟民集団は、前近代には最強だった騎馬軍事力を武器として、何度も強大な遊牧王朝を形成して南の中国王朝と対峙し、ときには中国本土を軍事制圧して支配下に入れることもあった。北方草原の遊牧民と中国本土の農耕民とあいだの対立・共存・支配被支配・融合といった多様な関係性は、ユーラシア東方の歴史の基調をなすといつてよい。本研究班では、前年度までおこなわれた共同研究班「前近代ユーラシア東方における戦争と外交」の成果をふまえ、12世紀前半にマンチュリアより勃興してユーラシア東方に覇を唱えた金(女真)と宋朝との関係をおもに記した南宋時代の史書『三朝北盟会編』を取り上げる。文献の精読をつうじて、ユーラシア東方における遊牧・民を中心とする北方勢力と中国本土に暮らす人びととのあいだの交流と相克の実態を具体的に検討するとともに、金の華北征服という北方からの衝撃が、当時の中国の政治・社会・文化にいかなる影響を及ぼし、いかなる変容をもたらしたのかという、中国史上の重要な問題を考究することをも目指すものである。

In Eastern Eurasia, there have been constant exchanges and interactions between pastoral nomads of the eastern part of the Eurasian Steppe and settled agriculturalists of China proper. Northern pastoral nomads founded several powerful nomadic dynasties, based on the speed and ferocity of its mounted archers, which was the preeminent military technology in pre-modern times; they confronted the Chinese dynasties and even conquered China several times. Relations between pastoral nomads from the steppe and agrarian people of China were dynamic and diverse, including military conflict, domination, coexistence and fusion. These

can be regarded as the basic patterns of Eastern Eurasian history. Based on the results from the former project “Warfare and Diplomacy in Pre-modern Eastern Eurasia” (2018-2022), this project will focus on the Southern Song history book “Sanchao beimeng huibian”, which deals primarily with the diplomatic relations of the Song dynasty with the Jin dynasty of the Jurchen people during the first half of the 12th century, when the Jin dynasty established its hegemony in the multi-state system of Eastern Eurasia. We will use the documents included in this book to analyze the characteristics of interaction and conflict between northern nomadic powers and the Chinese people. In addition, we will examine the impact and influence of the Jin conquest of Northern China on the politics, society and culture of China, including Northern China under the Jin and Southern China under the Southern Song.

5. 本年度の研究実施状況

研究テーマの「交流と相克のユーラシア東方史」について具体的に考察するための題材として、南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を進めた。12回にわたって『三朝北盟会編』の会読をおこない、『中華再造善本』所収の中国国家図書館（北京図書館）所蔵の明鈔本を底本に、テキストの校訂・訳注作業を進め、巻二十五から巻二十七までを読み進めた。また、7月末には遼宋金史にかんする文献学研究で新たな研究の地平を切り開いている中国北京大学の苗潤博氏を迎えて講演会を開催した。以上の研究会について、オンライン会議・対面のハイブリッドおよびオンライン会議の形式で開催した。

6. 本年度の研究実施内容

- 2024.5.14 『三朝北盟会編』巻二十五会読 発表者 古松崇志
- 2024.5.28 『三朝北盟会編』巻二十五会読 発表者 古松崇志
- 2024.6.11 『三朝北盟会編』巻二十五会読 発表者 武田和哉 大谷大学
- 2024.6.25 『三朝北盟会編』巻二十五会読 発表者 高井たかね
- 2024.7.9 『三朝北盟会編』巻二十五会読 発表者 矢木 毅
- 2024.7.23 『三朝北盟会編』巻二十五会読 発表者 井黒 忍 大谷大学
- 2024.7.28 研究発表 重構契丹歴史的路徑與前景 発表者 苗 潤博 北京大学歴史学系（人文研招へい外国人学者）
- 2024.9.22 研究発表 北宋における市舶司の制度変遷 発表者 蘇 焯鳴 京都大学大学院文学研究科 北宋禁軍の闕額問題 発表者 坂本孟 京都大学大学院文学研究科
- 2024.10.22 『三朝北盟会編』巻二十六会読 発表者 伊藤一馬 日本大学
- 2024.11.19 『三朝北盟会編』巻二十六会読 発表者 藤本 猛 京都女子大学
- 2024.12.3 『三朝北盟会編』巻二十六会読 発表者 飯山知保 早稲田大学
- 2024.12.17 『三朝北盟会編』巻二十六会読 発表者 岩本真利絵 釧路公立大学
- 2025.1.14 『三朝北盟会編』巻二十七会読 発表者 小野達哉 同志社大学

2025.1.28 『三朝北盟会編』 卷二十七会読 発表者 古松崇志

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

古松崇志、矢木毅、村上衛、高井たかね

学外

木村可奈子(東北大学大学院国際文化研究科)、蔡長廷(名古屋大学大学院文学研究科)、船田善之(広島大学人間社会科学研究科)、古畑徹(金沢大学人間社会研究域国際学系)、岩本真利絵(釧路公立大学)、渡辺健哉(大阪公立大学文学研究科)、飯山知保(早稲田大学文学学術院)、井黒忍(大谷大学文学部)、伊藤一馬(日本大学法学部)、岩井茂樹(京都橘大学文学部)、小野達哉(同志社大学文学部)、加藤雄三(専修大学法学部)、小林隆道(神戸女学院大学文学部)、齊藤茂雄(帝京大学文学部)、承志(追手門学院大学文学部)、城地孝(同志社大学文学部)、武田和哉(大谷大学社会学部)、藤本猛(京都女子大学文学部)、藤原崇人(龍谷大学文学部)、水越知(関西学院大学文学部)、毛利英介(昭和女子大学人間文化学部)、遠藤総史(中央研究院歴史語言研究所)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	42 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学 (内女性)	4	4 (1)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	24 (1)	0 (0)	10 (1)	0 (0)	10 (0)
公立大学 (内女性)	2	3 (2)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	14 (14)	7 (7)	0 (0)
私立大学 (内女性)	13	15 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	105 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関 (内女性)	1	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
その他 ※ (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	21	27 (4)	0 (0)	4 (2)	1 (1)	1 (0)	193 (36)	0 (0)	25 (15)	7 (7)	10 (0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

なし

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

なし

12. 博士学位を取得した学生の数

なし

13. 次年度の研究実施計画

研究テーマの「交流と相克のユーラシア東方史」について具体的に考察するための題材として、南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を継続する。『中華再造善本』所収の中国国

家図書館（北京図書館）所蔵の明鈔本を底本に、テキストの校訂・訳注作業を進め、巻二十七から読み進める予定である。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究班における『三朝北盟会編』を会読した成果をとりまとめ、校訂テキストの整理作業を進める。今後、校訂テキストと訳注を公刊する予定である。